5日　木曜

黙示録

10:1 また私は、もう一人の強い御使いが、
雲に包まれて天から下って来るのを見た。その
頭上には虹があり、その顔は太陽のよう、
その足は火の柱のようで、
10:2 手には開かれた小さな巻物を持っていた。
御使いは右足を海の上、左足を地の上に置い
て、
10:3 獅子が吼えるように大声で叫んだ。彼が
叫んだとき、七つの雷がそれぞれの声を発し
た。
10:4 七つの雷が語ったとき、私は書き留めよ
うとした。すると、天からの声がこう言うの
を聞いた。「七つの雷が語ったことは封じて
おけ。それを書き記すな。」
10:5 それから、海の上と地の上に立っている
のを私が見たあの御使いは、右手を天に上げ、
10:6 天とその中にあるもの、地とその中にあ
るもの、海とその中にあるものを造って、
世々限りなく生きておられる方にかけて誓っ
た。「もはや時は残されておらず、
10:7 第七の御使いが吹こうとしているラッパ
の音が響くその日に、神の奥義は、神がご自
分のしもべである預言者たちに告げたとおり
に実現する。」
10:8 それから、前に天から聞こえた声が、再
び私に語りかけた。「行って、海の上と地の
上に立っている御使いの手にある、開かれた
巻物を受け取りなさい。」
10:9 私はその御使いのところに行き、「私に
その小さな巻物を下さい」と言った。すると
彼は言った。「それを取って食べてしまいな
さい。それはあなたの腹には苦いが、あなた
の口には蜜のように甘い。」

Bible Reference 聖書の記述

10:10 そこで、私はその小さな巻物を御使い
の手から受け取って食べた。口には蜜のよ
うに甘かったが、それを食べてしまうと、
私の腹は苦くなった。
10:11 すると私はこう告げられた。「あなた
はもう一度、多くの民族、国民、言語、王
たちについて預言しなければならない。」

「七つの雷が語ったことは封じ」られて、まだ私たちにその内容はわかりません。主のみこころによって、人には知られることと知りえないことがあるのですから、人間は神の前に高慢になって、何でも分るのだという考えを捨てなければなりません。その上で、黙示録を解釈しなければ、これまでの異端や行き過ぎた行動を繰り返さないともかぎりません。

第七のラッパは最後で、この中にさらに７つの鉢による災いがあるのです。その前に、「預言しなければならない」と、語られます。預言とは神のことばを語ることですから、私たちにとっては伝道です。私たちが黙示録を読み、終末の出来事を理解するならば、それは伝道に向かうためのものなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？